

平成27年度 日本大学山形高等学校  
外部評価結果（総括）

平成27年度、日本大学山形高等学校より依頼を受けた外部評価者3名の代表として、以下のとおり外部評価結果を総括いたしました。

**☆生徒の安全、危機管理について**

**当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み**

- ・ SNSの普及により、いじめや人権侵害が複雑で表面化しにくく、事件や犯罪に巻き込まれやすくなっていること。
- ・ 安心・安全な環境作りを目的とした、生活指導年間計画及び各係年間計画・役割分担等の充実が図られているか。
- ・ 校舎等の耐震診断とその対応について。

**当該校の取り組みについて優れていると認められた点**

- ・ 安全管理規程やマニュアル等を作成し、役割分担が徹底されており各学年の教員が全体で対応できる体制ができている。
- ・ いじめアンケートの実施ならびに、いじめ防止の標語やポスター作製により、いじめの無い学校づくりを推進している。
- ・ 人権侵害への取り組みは国際的にも強く求められているが、ガイドラインやパンフレットを作成し、防止・問題解決に取り組んでいる。
- ・ 安全や非行防止の対応として、警察や専門機関を活用した生徒向けの研修会や講習会を、事前指導として実施している。
- ・ 総合運動場管理棟や部室等の耐震診断を実施している。

**改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み**

- ・ 校舎、建物の老朽化と耐震性についての改善と、新校舎建設計画が財政上の理由から取りやめになったことによる、今後の計画についての方針等の明示。
- ・ 大規模災害時の緊急避難場所としての役割について、関係団体との連絡協議と、安全管理規程やマニュアルを運用するための計画的な訓練、役割分担を確認するためのシステムづくりが必要である。

**その他気づいた点、疑問点など**

- ・ 頭髪服装検査について、基準が教員によって異なるのは困るなどの意見があったため改善が必要と思われる。
- ・ 学校の雰囲気は、色々な人が頑張っていて過ごしやすいとの事で、挨拶もしっかりでき爽やかな印象を持った。

## ☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

### 当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・保健管理・保健教育などの計画が作成され、全体で取り組む体制が出来ているか。
- ・生徒の健康状況の把握や特別支援教育の必要な生徒への対応が出来ているか。
- ・精神疾患や不登校傾向の生徒への対応が出来ているか。
- ・インターカー取得の教職員が多く、悩みごとの相談をしやすい環境にあるか。
- ・早期発見早期対応で問題の深刻化を防止しているか。

### 当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・年度当初に、生徒の情報交換を全教員で行っており、情報管理も適切に行っている。
- ・生徒指導と連携して、「10代の性」の講話を行っている。生徒も必要性を感じており、講話などの計画的な指導が機能している。
- ・生徒の環境への意識が浸透しており、ペットボトルや燃えるゴミなどのゴミの分別が行われている。
- ・保健室や生徒相談室の環境はよく整備されており、生徒が行きやすい環境にある。
- ・保健衛生について計画的に、授業でも教室内でも教育指導に取り組まれている。

### 改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・特別支援教育が必要な生徒や、不登校傾向の生徒を指導するためのプロジェクトを中心とした指導体制が必要と思われる。特に不登校の生徒への対応については、分析した特徴を踏まえ、年度途中でのコース変更等の柔軟な対応も検討していただきたい。
- ・生徒指導部との連携による、カウンセラーやインターカー等との、有効な相談体制の確立を目指してほしい。
- ・本校の相談体制システムを定期的に生徒や保護者に周知するなど、生徒の状況の変化に対応するためのPR活動を行ってほしい。また、カウンセラーに該当生徒を繋ぐための担任の対応についての共通理解ができているか確認してほしい。
- ・不登校や発達障害など、担任が対応できる範囲を超える事例が多く出てくることを考えると、養護教諭が1名さらに週2回のカウンセラーの対応で事足りているのか疑問である。
- ・精神健康・不登校・いじめの件数がどこでも多くなってきている。各種防止委員会の充実（早期対応）が今後さらに必要と考える。
- ・新種のウイルス性感染症に警戒が必要であり、情報提供と予防、対応策の強化が必要と考える。
- ・生徒の深刻な問題に関して、匿名やメールを利用した対面でない相談が出来る体制の構築について検討していただきたい。
- ・清掃への取り組みや教室内の美化についてはクラスによる差異が大きく、担任の意識の違いによるものかを検証し、対応する必要があると感じた。

### その他気づいた点、疑問点など

## ☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

### 当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・日本大学進学のための具体的な進学指導の在り方について。
- ・計画的な進路指導として、進路学習ノートを利用した入学から卒業までの3年間を通した流れが徹底されているか。
- ・各種講話・職業体験等の企画が充実しており、キャリア形成のための手立てとなっているか。
- ・全体的に進学率が高く、日本大学へほどの学部にも満遍なく進学者があり、国公立大学や私立難関大学にも進学者がいるか。
- ・各方面の進路希望に沿った指導と教育が幅広く行われているか。

### 当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・学年毎にキャリア学習の年間計画を作成し、一人一人の希望に沿ったキャリア学習を計画している。
- ・特進コース、進学コースのねらいがしっかりと生徒に理解されており、個に応じた教育が推進されている。
- ・日本大学への進学希望者に対する進路指導が丁寧に行われており、生徒は安心して受験できている。
- ・公務員講座や職業講話等を実施し、適切な進路指導を進めており、就職希望者は100%就職している。
- ・情報収集のための施設・設備・資料は十分に整っている。
- ・進路学習ノートに沿って、適切に指導が行われている。また、各種講話・職業体験をとおして、実社会の現状を理解した指導の充実がうかがえる。生徒達からは、早い段階での情報の提供もあるため、進路決定に役立っているとのことであった。
- ・自習室等も充実していて、遅くまで対応する教員の配置も出来ている点は評価できる。生徒が自主的・自発的に学び学習できる環境を整えていくことは大変重要と考える。

### 改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・大学進学者の自立的な進路選択や、見通しのある将来計画を持つことができるようなキャリア教育をさらに進める必要がある。大学に合格することが優先し、大学卒業後の職業や自分らしい生き方を考えることなく、学部や学科を選択する生徒が少なくなるようなキャリア教育になっているか検証してほしい。
- ・女子生徒の将来の職業を考えた進路選択が大きく影響しているようであるが、日本大学への女子の進学者が少ないように感じる。改善の必要性の有無も含めて検討が必要であると感じた。
- ・高大一貫という付属高校として進路が比較的約束されることで、学習に対する意欲の欠如が気になる。難関大学等の突破には、まだ改善の余地はあるかと思う。
- ・授業評価アンケートの結果から、家庭学習の一層の充実が必要であるという状況把握はできている。基礎学力到達度テストに向けて、生徒の意識改革と各学年における基礎学力の定着を如何に実現させていくか今後一層の努力と検討が必要と考える。
- ・インターンシップの参加者が少ないように思われる。昨今注目されている取り組みでもあり、将来の勤労観・職業観につながるため、進学希望の生徒であっても参加出来るように啓蒙してほしい。

### その他気づいた点、疑問点など

## ☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

### 当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- ・保護者や地域への情報発信の状況。
- ・保護者会活動が活発に行われているか。※地区保護者会との連携の充実
- ・地域の行事へ学校や生徒会の参加について。※地域との連携
- ・保護者会に対して非常に理解があり，OB会との連携も良い点。
- ・卒業生，保護者，生徒，先生方が学校との関りを大事にしていくことで，地域での評価を高めている点。

### 当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- ・地区保護者会を毎年実施し，生徒の様子を還元するとともに，保護者との連携を図っている。
- ・学園祭に保護者が出店をするなど，保護者と生徒の交流を意識した活動がある。
- ・保護者会との連携について，インターハイの応援・文化祭の手伝い・地区との交流などを通して，高い理解が得られている。
- ・地域との交流として，ボランティア（雪かき）・学園祭（寄付），等，地域行事へ積極的に参加している。
- ・8つの地区保護者会が独自性を持って活動し，関わりのある多くの方々が地域からの生徒をしっかりと見守っている。
- ・HPを充実させ，情報を発信し理解を得ようとしている。

### 改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- ・JRC（青少年赤十字）活動などのボランティア活動は行われているものの，地域への学校や生徒会の貢献があまり見えない。生徒も忙しく活動しているため，すべての生徒が関わることは難しいが，部活動単位や生徒会で希望者を募り実施するなどの方策も考えられる。
- ・一部の保護者は大変協力的であるが，多くの保護者からさらに理解していただく手立てを検討する必要がある。
- ・保護者との連携については，今後，益々重要になると思われる。保護者への情報の発信を積極的に行い，密なる交流を継続していくべきと考える。
- ・地域との関わりについて，生徒との面談の中でも，時間があればどんどんやりたいなどの意見が出されている。地域参加型のイベントへ参加する機会を増やすなど社会に貢献する機会を通して，生徒の何事にも主体的に取り組む意欲の育成に繋がることにより，地域の学校に対する理解も深まると思う。
- ・保護者会と生徒，地域が関わる事業は学園祭でのブース出店だけなので，他にも事業の企画があっても良いのではないかと。

### その他気づいた点、疑問点など

- ・地域人材の活用・学校施設の開放及び地域行事への参加（地域清掃・交通指導・ボランティア）などによる地域交流を通して，学校を理解してもらうことは，少子化を迎えるにあたり今後益々重要と考える。

## 全体評価

### 評価概況

- ・今回の外部評価は、事前に取り組み事項を抽出し、評価のポイントを絞って実施されたため、課題、問題を明確にすることが出来た。
- ・外部評価者の人選については、もう少し広く地域の方の意見を聞き、参考にできるとよい。
- ・学校の組織としての取り組み体制、計画的な指導がされていることがわかり非常に良かった。

### 評価できる点

- ・各種規程やマニュアル等を作成し、担当が明確になっており教員全体で対応が出来る体制が出来ている。
- ・進路指導や生活指導において講話等を積極的に取り入れ、生徒の理解を得て計画的な指導が機能している。
- ・自習室が充実しており、教員も遅くまで対応する等、生徒の学習環境が整えられている。
- ・進学や就職の進路指導について、早期の情報提供等細かな指導がされている。

### 改善すべき点

- ・頭髪検査や服装検査において、指導する基準が教員毎に曖昧な点があるとの意見があった。また清掃の取り組みもクラスによって差があると感じたが、これも担任の意識の差であり、組織として改善の努力が必要と思われる。
- ・教育環境や社会状況の変化に対する迅速な対応が出来ている反面、様々な事業や行事の中止や変更による弊害が見られる。
- ・不登校の生徒や特別支援が必要な生徒への対応について、相談室やカウンセラーが整備されているが、更なるプロジェクトチームの設置等、特別な指導体制が必要と思われる。

### その他感想

- ・日本大学進学のための統一テストの日程が9月に変更になり、今年度から学園祭を一学期に実施することになった。統一テスト（基礎学力到達度テスト）のシステム変更が生徒へ負担をかけている。本部に改善を求めてほしい。
- ・生徒との面談を行ったが、進学コースと特進コースの生徒だったため、スポーツコースの生徒の話聞くことができなかった。幅広い人選も必要と思われる。
- ・生徒指導上の服装点検など日常的な活動について生徒が肯定的に捉えている。また、いろいろなタイプの人がいて楽しいとの生徒からの評価もあり、伸び伸びと生活できる環境が整っていると考えられる。